

名詞のナ形容詞化と表現意図

久野 かおる

1. はじめに

日本語教育では、一般的に、名詞を修飾するときの形が「高い」「おいしい」など「-い」の形の語を「イ形容詞」、「静か」「きれい」など「-な」の形の語を「ナ形容詞」として提示している。しかし、初級日本語の学習の際、「ナ形容詞」として提示している語の中には、「ナ形容詞」とも「名詞」とも扱える語がある。

また、名詞が名詞を修飾するときには「名詞+の」の形であるべきだが、書名などに敢えて「名詞+な」の形を取り、ナ形容詞的な使い方をして書き手の表現意図を伝えようとする例も見られる。その一方で、テレビを見ていると、話し手が無意識に「名詞+な」の形で話し、特別な表現意図を感じない例も多い。

そこで拙稿では、日本語教育の視点から、「ナ形容詞」の扱いに注目し、「名詞+な」の用例を取り上げ、その表現意図を検討する。

2. 先行研究

ここでは、「ナ形容詞」（形容動詞）がどのように解釈され、扱われているか見てみる。

2-1. 国文法から日本語文法へ

『日本語百科大辞典 縮刷版』（1995年 大修館書店）や『日本語文法大辞典』（2001年 明治書院）などを見てもわかるとおり、国文法での「ナ形容詞」（形容動詞）の解釈、扱いは研究者によって異なる。

『研究資料日本文法 第3巻 用言編（二）形容詞 形容動詞』（1984年 明

治書院)第5章「形容動詞とは何か」(小島俊夫記述)p.149～p.150には「形容動詞論史略年表」が示され、「形容動詞を設定する考え方」、「形容動詞を設定しない考え方」、「設定する・しない、その考え方の比較検討」ではそれぞれの論点がまとめられている。

三尾砂は『話言葉の文法 言葉遺篇』(1995年 くろしお出版<1942年の復刻版>)のp.38に形容詞を形態から以下のように分類している。

基本形の語尾が「い」で終る形容詞 (略稱、「い」形容詞)

—赤い、美しい

基本形の語尾が「な」で終る形容詞 (略稱、「な」形容詞)

—静かな、進歩的な

基本形の語尾が「の」で終る形容詞 (略稱、「の」形容詞)

—本當の、當然の

語尾が「い」「な」「の」で終るもの以外のすべての形容詞 (假稱、連體詞) —いはゆる、堂々たる、きちんとした

また、「好きのやうだから」、「面倒のやうだから」などの用例を挙げ、次のように述べている。

「やう」へつづく「な」形容詞の形 「やう」へつづくときには、「な」形容詞の語尾の「な」が「の」にかはつて、一時的の「の」形容詞になつたやうな現象を呈することがあります。(p.163 l.3～l.4)

さらに、「な」形容詞と「の」形容詞の関係について、次のように記している。

「の」形容詞のうちには、同時に「な」形容詞でもあるといふ二重籍のものがたくさんあります。「の」形容詞から「な」形容詞への轉籍の傾向は一般的なものとかんがへられます。「の」と「な」の両方の語尾を持つてゐるものは、「な」形容詞への轉向過程にあるものとみられ

ます。(中略)

かういふ種類の例は非常にたくさんあげることができます。それだけまた、「な」形容詞と「の」形容詞との親縁関係がみとめられるわけで、「な」形容詞をとりあげるならば「の」形容詞も同じやうに道づれにしなければならぬ理由があるわけです。(p.167 1.3 ~ p.168 1.10)

上記、形容詞の関係については、寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味 I』(1982年 くろしお出版) 第1章でも「品詞間の連続性」を取り上げ、「Nの中にも、Na 寄りのものがあること、Naの中にも、より Nに近いものと、より Aに近いものがある」(p.72 1.19 ~ 1.20)と述べている。そして、p.74に図で「名詞、名詞的形容詞、形容詞、動詞」の分類を示した。

三尾砂が示した形容詞の分類は、村木新次郎によって「第一形容詞（イ形容詞）」、「第二形容詞（ナ形容詞）」、「第三形容詞（ノ形容詞）」として提示され、『ひつじ研究叢書<言語編>第101巻 日本語の品詞体系とその周辺』(2012年 ひつじ書房)に研究がまとめられている。村木氏は、「言語はもとより、形式と意味・機能との統一体である。形式は意味をそなえたものとして、また意味は形式にささえられたものとして、不可分のものとしてとらえる必要がある。」(p.32 1.3 ~ 1.5)という見解に基づき、第三形容詞の語構成や用法など、数多くの語例を示し、多岐にわたる分析をしている。「品詞間の連続性」についても、「各品詞の境界は、そもそも不鮮明で、離散的なものではなく、異なる品詞間にはかさなりがみられたり、品詞間の関係が連続的であったりしているものなのである。」(p.186 1.1 ~ 1.3)と述べている。

なお、村木氏は「『神戸な人』という言い方とその周辺」(中村明他編『表現と文体』8章所収 2005年 明治書院)で「名詞+な」の用例を挙げ、「名詞+の」との意味の違いを検討している。

2-2. 日本語教育の視点

高見澤孟「E.H. ジョーデン女史の日本語教育への貢献」(「昭和女子大学女性文化研究所紀要」第33号所収 2005年)の「はじめに」に、「第二次

大戦後の日本語教育に最も大きな影響を与えたのは、米国人言語学者のエレノア・H・ジョーデン (Jordan, Eleanor H. 1920 ~) であるといっても過言ではない。」という記述がある。そして、「第2章 ジョーデンと日本語文法」の「2-4 ジョーデンの文法用語」の中で、次のように述べている。

ジョーデンの文法では、国文法の形容動詞は、名詞の一種として扱
いNA-nominal (ナ型名詞) としている。これは否定形が「～じゃない (例; 元気じゃない)」になるなど、名詞的性格が濃厚であり、
他の名詞を修飾する場合には、「な」を必要とする点で一般的な名詞と
は異なることを示すためであった。口語のダ形容動詞の活用語尾は、
NA-nominal + Copula と考えていると思われる。(p.7 1.10 ~ 1.14)

ジョーデンが作成した日本語教科書 (*Beginning Japanese*) を使用して
いたという学校法人江副学園 新宿日本語学校の江副隆秀校長は、『外国人
に対する日本語教育からろう児も国語教育へ 見える日本語、見せる日本
語 (1)』(2011年 平河工業社) で「な形容詞」の呼称に疑問を投げかけ、
日本語教授者の立場から次のようにまとめているので、興味深い。

まとめて整理すると、いわゆる「ナ形容詞」と呼ばれているものは、
名詞の範疇に入れて

- ①名詞に「である」の意味で付く時は「な」、(基本的には事物・現象
の状態・形態・性質などを言い表す言葉が多い。)
- ②動詞に接続する時は「に」、
- ③形容詞や形容動詞などの修飾語に付く時は「で」を必要とする、
- ④後続する言葉との関係が名詞と名詞の関係の場合は、「の」を付ける
ことができる。

以上のような特徴を一言で説明するため、「なにで名詞」とか「なに
での形容名詞」という一風変わった名称を冠することにした。これは、
こういう品詞があるというより、むしろ、これ等の言葉は様態を表す

意味を伴うために〔～である〕という形で使われやすいとまとめたと言った方がいいのかも知れない。(p.15 1.16 - p.16 1.10)

2- 3.『岩波国語辞典』の提示

これまで名詞かナ形容詞か確認したいときには、『岩波国語辞典』を目安にしてきた。『岩波国語辞典』については、日本語文法学会編『日本語文法事典』(2014年 大修館書店)の「形容動詞(形容名詞、ナ形容詞、状名詞)」(p.190)の項目に次の記述がある。

『岩波国語辞典』は、「安価」「高貴」の類を名詞であり、連体修飾の形が「ノ」「ナ」の両方あるもの、「かさかさ」「急激」の類を形容動詞で連体修飾の形に「ナ」「ノ」の両方あるもの、のようになりに厳密に認定している。

『岩波国語辞典』の見返しにある「略語表」には、次のように示されている。

名 名詞
名_ナ 連体修飾に「-な」の形も使うもの 例「高貴」
ノダ 「-の」の形で連体修飾し、述語にもなるもの 例「名うて」「既知」
ダナ 形容動詞活用
ダ_ナ 形容動詞のうち、連体形に「-の」の形のあるもの

辞典の巻末にある「語類概説」では、「名詞」の項目(p.1700)に次の記述がある。

名詞でありながら連体修飾に「-な」の形が使えるものもかなりある。これには『名_ナ』の表示をした。

また、「形容動詞」の項目(p.1701)には次の記述がある。

形容動詞の語幹は、しばしば名詞と紛れる。学者によってはこの品詞を認めないが、この辞典は通説に従って、語類を『ダナ』で表示した。表示が『名・ダナ』の場合には名詞・形容動詞両用なので、連体修飾には当然「-の」も「-な」も現れる。ただし次の基準に合うものだけを形容動詞と認めた。口語で言えば、(1)「-に」の形が広く(「なる」「する」の類と結合して結果を表す格助詞の「に」だけでなく)動詞に対して副詞と同様の連用修飾の働きをすること。(2)連体修飾語となる時の形が「-な」であること。(3)「だろ・だっ・で・に・だ・な・なら」の活用語尾が、原則としてそろっていること、などである。(中略)

以上の通りこの辞典では、形容動詞かと思われる場合には、かなり細かい検討をした。そこで『名_ナ』『ダナ』『ダ_ナ』のような注記の区別が生じたわけである。(中略)

国語では形容詞があまり豊かでなかった。その不足を補うために発達した品詞が、形容動詞である。したがってその文法的性質は、形容詞とかなり似ている。

3. 問題提起—初級日本語教科書の「ナ形容詞」

名詞とナ形容詞に関して、日本語学習者の誤用には、次のような使い方が見られる。⁽¹⁾

世界中の大ぜいな人たちは日本の実際的な方法で勉強したいです。

(ネパール男子 日本語学習歴1年8か月)

この場合、「大ぜい」は名詞であるから、「大ぜいの」が正しい。よって学習者に説明するのも困難ではない。

しかし、これまで初級日本語教科書の文型を教えていて、ずっともやもやしてきたことがある。それは例えば「暇」の扱いである。以下に日本国内のみならず世界各国でも広く使われている初級日本語教科書『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊』(2012年 スリーエーネットワーク)、『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊』(2013年 スリーエーネットワーク)を例と

して見てみる。

この教科書は全 50 課で構成され、第 8 課ではじめて形容詞を学習する。「暇」はナ形容詞として登場する。文型の中で、例えば「有名で」「雨で」、「有名になる」「26 さいになる」、「有名だったら」「雨だったら」など、ナ形容詞と名詞の形が同じ場合は、混乱はない。しかし、第 23 課「-とき」、第 47 課「-ようです」のようにナ形容詞と名詞の形が異なる文型ではどうであろうか。

第 23 課で「暇」はナ形容詞として「ひまなとき」と提示されている。名詞の場合は、「病気のとき」「子どものとき」「26 さいのとき」など、「名詞のとき」の形で学習する。つまり、ナ形容詞か名詞かによって形が異なるわけで、学習者はこの課ではじめて品詞による形の違いを認識することになる。学習者が「ひまのとき」と使ったら、どうであろうか。ちなみに第 25 課で「暇」は「暇があったら」と名詞としても登場する。「危険」「元気」も名詞としても提示されている。

また、第 47 課では、ナ形容詞の場合は「すきなようです」、名詞の場合は「ほんとうのようです」と形が異なる。これは第 23 課と同様である。学習者が「すきのようです」「ほんとうなようです」と使った場合は、どうだろうか。

「暇な」と「暇の」の違いを考えると、同じ意味とも受け止められるが、厳密には違いがあり、「暇な」は「暇に思われる時間・状態」であり、「暇の」は「確定的に暇である時間・状態」とでも言うべきか。

先行研究でもわかるとおり、ナ形容詞の扱いは困難で、定まっていないこともある。日本語教育で便宜上ナ形容詞として提示している語は、実際には扱いが難しい語である。⁽²⁾「同じ」「普通」「平和」「本当」はナ形容詞としては提示されていないが、注意が必要である。

以下に上記初級日本語教科書にナ形容詞として提示されている語が、国語辞典ではどのように品詞分類されているかを示す。それぞれの語の扱いが難しいことがわかる。

	『岩波国語辞典』	『旺文社国語辞典』	『集英社国語辞典』	『新明解国語辞典』	『大辞泉』	『明鏡国語辞典』
あんぜん [な]	名・ダナ	名・形動ダ	名・ナ	二 _な	名・形動	名・形動
いや[な]	ダナ	<input type="checkbox"/> 形動ダ <input type="checkbox"/> 感	ナ	二 _な	<input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 接頭	<input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 感
いろいろ [な]	名・ダナ・ 副	<input type="checkbox"/> 名・形動 ダ <input type="checkbox"/> 副	名・ナ・ 副(ト)	二 _な	<input type="checkbox"/> 名・形動 <input type="checkbox"/> 副	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 副ト
かんたん [な]	名・ダナ	名・形動ダ	ナ	二 _な	名・形動	形動
きけん[な]	名・ダナ	名・形動ダ	名・ナ	一 _な	名・形動	名・形動
きらい[な]	名 _ナ	<input type="checkbox"/> 名・形動 ダ <input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名・ナ <input type="checkbox"/> 名	二 _な	名・形動	<input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 名
きれい[な]	ダナ	形動ダ	ナ	二 _な	形動	形動
げんき[な]	名・ダナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動ダ	名・ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 二 _な	名・形動	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動
しあわせ [な]	①名・ダナ ②名	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 名・形動 ダ	名・ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 二 _な	名・形動	名 形動
しずか[な]	ダナ	形動ダ	ナ	二 _な	形動	形動
じゃま[な]	名 _ナ ・ス他	<input type="checkbox"/> 名・他ス ル・形動ダ <input type="checkbox"/> 名	名・ナ・他ス ル	一 _な 一 _{する} (他サ)	名・形動スル	名 形動・他サ 変
じゅうぶん [な]	ダナ・副	副・形動ダ	ナ・副	二 _な	<input type="checkbox"/> 名・形動 <input type="checkbox"/> 副	形動・副
じょうず [な]	名・ダナ	名・形動ダ	<input type="checkbox"/> 名・ナ <input type="checkbox"/> 名	名 二 _な	名・形動	名・形動
じょうぶ [な]	①ダナ ②名	名・形動ダ	ナ	二 _な	<input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 名	形動
しんせつ [な]	名・ダナ	名・形動ダ	名・ナ	二 _な	名・形動	名・形動
しんぱい [な]	①名 _ナ ・ス 自他 ②名・ス自 他	<input type="checkbox"/> 名・自他 スル・形動ダ <input type="checkbox"/> 名・自他 スル	<input type="checkbox"/> 名・自他 スル <input type="checkbox"/> 名・ナ・ 他スル	一 _な 一 _{する} (他サ)	名・形動スル	名・他サ変 形動

名詞のナ形容詞化と表現意図

すき[な]	名 _ナ	名・形動 _タ	名・ _ナ	二 _な	名・形動	<input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 造
すてき[な]	タナ	形動 _タ	ナ	一 _な	形動	形動
だいじょうぶ[な]	①名 _ナ ②名	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 副・形動 _タ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 副	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 副	<input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 副
たいせつ[な]	ダナ	名・形動 _タ	ナ	二 _な	形動	形動
たいへん[な]	①ダナ・副 ②名 _ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動 _タ <input type="checkbox"/> 副	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 二 _な <input type="checkbox"/> 副一に	<input type="checkbox"/> 名・形動 <input type="checkbox"/> 副	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 副
だめ[な]	①名 ②名 _ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動 _タ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 名・ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 二 _な	名・形動	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動
とくべつ[な]	ダ _ナ ・副	<input type="checkbox"/> 名・形動 _タ <input type="checkbox"/> 副	_ナ ・副	二 _な	<input type="checkbox"/> 名・形動 <input type="checkbox"/> 副	<input type="checkbox"/> 名・形動 <input type="checkbox"/> 副二
にぎやか[な]	名・ダナ	形動 _タ	ナ	二 _な	形動	形動
ねっしん[な]	名・ダナ	名・形動 _タ	ナ	二 _な	名・形動スル	名・形動
ハンサム[な]	名 _ナ	名・形動 _タ	ナ	一 _な	形動	形動
ひつよう[な]	名 _ナ	名・形動 _タ	名・ _ナ	二 _な	名・形動	名 形動
ひま[な]	名 _ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 名・形動 _タ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> ナ	一 _な	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動	名 形動
ふくざつ[な]	名・ダナ	名・形動 _タ	_ナ	二 _な	名・形動	名・形動
ふべん[な]	名 _ナ	名・形動 _タ	名・ナ	<input type="checkbox"/> 二 _な <input type="checkbox"/> 一する(自 サ)	名・形動	名・形動
へた[な]	名・ダナ	名・形動 _タ 自スル	名・ _ナ	二 _な	名・形動	名・形動
へん[な]	①名・造 ②ダナ・造	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 名・形動 _タ	<input type="checkbox"/> 造語 <input type="checkbox"/> (-)名 <input type="checkbox"/> (-) _ナ	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 二 _な	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動	<input type="checkbox"/> 名 <input type="checkbox"/> 形動 <input type="checkbox"/> 造

べんり[な]	名 _ナ	名・形動 _ダ	名・ナ	二 _ナ	名・形動	名・形動
まじめ[な]	ダナ	名・形動 _ダ	名・ナ	二 _ナ	名・形動	名・形動
むだ[な]	名・ダナ	名・形動 _ダ	名・ナ	二 _ナ	名・形動	名・形動
むり[な]	名・ダナ	名・形動 _ダ	名・ナ	一 _ナ	名・形動スル	名・形動
ゆうめい [な]	ノダ	名・形動 _ダ	名・ナ	二 _ナ	名・形動	形動
らく[な]	①名・ダナ ②名	<input type="checkbox"/> 名・形動 ダ <input type="checkbox"/> 名	<input type="checkbox"/> 名・ナ <input type="checkbox"/> 名	二 _ナ	<input type="checkbox"/> 名・形動 <input type="checkbox"/> 名	名 形動

4. 用例検討

ここでは名詞のナ形容詞化、すなわち「名詞+な」の例を挙げ、その表現意図を検討する。用例には通し番号を付し、該当箇所の下線を記した。

4-1. 書き手の表現意図

北原保雄編『問題な日本語－どこがおかしい？ 何がおかしい？』（2004年 大修館書店）が発売されたとき、「問題な」とはいかかなものかと驚いた。しかし、著者の表現意図を考えると、「問題の」の形で「明らかに問題がある日本語」とするのではなく、「問題な」の形にすることにより、「問題があると思いませんか？」と問題提起していると感じた。北原氏は「まえがき」の中で次のように述べている。

日本語ブームといわれ、日本語に関する本が数多く出版されているが、本書は、単に、「使ってはいけない」「この用法は間違っている」と指摘するだけの本ではない。どうしてそういう表現が生まれてくるのか、誤用であったとしても、その誤用が生まれてくるいわば「誤用の論理」は何なのかを究明している。表題とした「問題な」も味な使い方だと思うが、問題のある表現である。本書が、「問題の日本語」について疑問を持ち考えるときの一助になれば幸いである。(p.3)

また、北原氏は『続弾！問題な日本語－何が気になる？ どうして気になる？』（2005年 大修館書店）の最後に表題「問題な日本語」を取り上げ、次のように述べている。⁽³⁾

「問題な日本語」という書名を決めるときには、いろいろ考えました。そして、最後に出てきたのが「問題の日本語」でした。「問題」は名詞で、これが名詞を修飾するときには「問題の」というように「の」を付けるのが普通だからです。ただ、これではいささかインパクトに欠けます。「問題な」とすれば、言語感覚の優れた人には違和感があり、目を留めてもらえるのではないかと考え、「な」に変えたのです。ただ、「な」の文字を、前に傾け、色を変えて、意識的に変えていることを示しました。(p.152)

そして、「の」と「な」は付く語によって使い分けがあるとし、次の3つに分類している (p.153～p.154) ので、下記に要点を引用する。

- A「の」だけが付く→実体を表すものには「の」が付く
- B「な」だけが付く→属性（性質や情態）を表すものには「な」が付く
- C「の」も「な」も付く→Bと同じく属性（性質や情態）を表すものには「な」が付く。加えて「の」が「である」に言い換えられる場合は「の」が付く

北原氏は「問題な日本語」を次のようにまとめている。

「問題な日本語」の「問題」は、属性的な意味を表しています。属性的な意味に「の」が付くことは問題なく、したがって、「問題の日本語」という表現で間に合います。「問題の日本語」には、＜問題として出されている日本語＞＜問題になっている日本語＞などの意味と、＜問題のある、変な日本語＞という意味がありますが、「問題な日本語」には、前者の意はなく、＜問題のある日本語＞の意に限定され、誤解なく伝わるという利点もあります。(p.158)

以上を踏まえて、次の用例を見てみる。

- (1) 中井信之『美人な「しぐさ」』(2016年 ディスカバリー・トゥエンティワン)
- (2) 彩希子『「あの人すてき！」と思わせる美人な姿勢図鑑』(2017年 新星出版社)
- (3) 中井信之『女も男もあこがれるハンサム美人な「しぐさ」』(2018年 ディスカバリー・トゥエンティワン)

上記のいずれも「美人」は名詞であるから、「美人な」は本来誤用であり、違和感があるが、書名として著者の意図がうまく伝わっていると思う。「美人な」の意味は「美人のように見える、美人っぽい」であり、「美人の」が意味する「美人が行う、美人特有の」とは異なる。

他にも「美人な」の用例は、Googleで「美人な」を検索すると、「美人な人」「美人な女優」「美人な人ほど」などが出てくる。これらはどのような使い方をしているか実際に見てみないとわからないが、意図としては確かな「美人」を表しているように思う。

次は新聞広告欄にあった用例である。

- (4) 「ペントハウス日本版」と事件なヌード (2020年10月9日付中日新聞朝刊5面「週刊現代」広告欄)

「事件な」は実際にあった事件の意味ではなく、「事件のように強烈な」を意図し、後ろの名詞「ヌード」を際立たせている。

また、「名詞+な」は次のように小説の文中にも使用されている。

- (5) その特徴ある外観は、かつて東京にあったものを模したらしいが、更にミヤコにふさわしい大和な雰囲気造りに造り上げられている。
(恩田陸『雪月花黙示録』p.46 1.9～1.10 2013年 角川書店)

この「大和な」は、「大和的な、大和を感じさせる雅な」という意味であろう。

- (6) 「教授はまだ五十代です。定年までは十年近くある。派手さはないが温厚な性格な上に、学者としての視野は広く、粘り強い論述には定評がある。今しばらくは走り続けてもらわなければ困る人物です」

(夏川草介『始まりの木』 p.253 1.16 ~ 1.18 2020年 小学館)

この「性格な」は、「～な上に」の形に引かれたものと思われる。

さらに、次の場合は、どうであろうか。

- (7) 「構内のどこかにバーがあるって話は聞いたことがありますが、実際に探したことはありませんでした。見つけたところで、こんな大人な店、簡単には入れそうにないですけど」

(夏川草介『始まりの木』 p.292 1.15 ~ 1.16 2020年 小学館)

「大人」は「大人⁽⁴⁾な」と表現することにより、「大人っぽい、大人の雰囲気を持つ」を意図し、「大人の」（「大人対象の、大人が使用する」）との違いを表している。

4-2. 話し手の表現意図

「名詞+な」の使用について、前述の書き手の表現意図に比べると、話し手の表現意図は「名詞+の」との違いを意識せずに使っていることが多いように思う。以下にテレビを見ていて、気が付いた用例を示す。

- (8) 紳士なイメージ (CBC「TOKIO カケル」 2019年4月10日)
- (9) 普通な感じでいいんじゃないですか。(CBC「わたし、定時で帰ります」 2019年4月16日)
- (10) ○○さんにとって大切な時間なようで (NHK 総合「サラメシ」 2019年9月24日)
- (11) 崖っぶちなそっくりさん二人 (メ〜テレ「芸能人格付けチェック」 2019年10月8日)

- (12) 日本でここだけな風習が (メ～テレ「ナニコレ珍百景」 2020年2月2日)
- (13) 私がタイプな人が来て (NHK Eテレ「ねほりんぱほりん」 2020年2月5日)
- (14) 健康志向な若い方も 増えている。(NHK 総合「所さん！大変ですよ」 2020年9月17日)

上記のいずれも「名詞+の」と使うべきであるが、敢えて「名詞+な」を使ったかというところでもなく、話し手は無意識に言葉を発しているように感じた。つまり、「名詞+の」でも「名詞+な」でも話し手の表現意図に違いはないと思われた。

では、次の例は、どうであろうか。

- (15) 美人な奥さん じゃないですか。(NHK 総合「サンドのお風呂いただきます」 2019年11月13日)

話し手が「美人」と認定して「美人な」と使っていたのは映像を見ていてわかったが、「奥さん、美人じゃないですか。」とか「奥さん、美人ですね。」と言えば、「美人」が確かな事実となると思った。

また、次の例は話し手が「名詞+な」の形で話すことにより、「名詞+の」との違いを伝えていると思われた。(16)の「大人な」は「大人っぽい」、(17)の「昭和な」は「昭和の時代を彷彿とさせる」という意味である。

- (16) 大人なデザート (NHK Eテレ「グレーテルのかまど」 2020年1月6日)
- (17) 昭和な金物店 (CBC「坂上&指原のつぶれない店」 2020年4月12日)

以上のように、書き言葉と話し言葉を比べると、「名詞+な」を使う場合、

書き言葉のほうが書き手の表現意図が明確である。話し言葉の場合は、話し手が「名詞+な」を無意識に使っていることが多いが、敢えて「名詞+な」を使うことにより表現意図を伝えようとしている場合も見られる。書き言葉にしても話し言葉にしても、結局は読み手、聞き手の感覚と受け止め方次第である。

話し言葉で「名詞+な」が無意識に使われるのは、「名詞なんです」「名詞なので」「名詞なのに」のように「な」の形で使う文型があるため、自然に「な」の形に引っ張られていると思われる。また、「な」と「の」を発音するときに、「な」のほうが口の開きや舌の動きが楽なことも関係しているかもしれない。

5. おわりに

日本語学習者にとっては文型・文法事項や語彙などの共通点、相違点が明確な決まりにしたがって分類されたほうがわかりやすい。「イ形容詞」、「ナ形容詞」として分類し、提示しているのも学習の際、わかりやすく、定着しやすくするためであり、教授者にとっても便利である。

しかし、拙稿で問題提起したように、実際の日本語は意味や用法など複雑で、話し手・書き手の表現意図を解釈するとなると容易ではない。「名詞+な」に限らず、当初は文法的に誤用であっても、違和感を逆手に取り、人々に馴染みやすい、口にしやすい、浸透しやすい、リズムのよい、キャッチーな使い方が定着することもある。誤用から学ぶことも多い。今後も日本語学習者とともに日本語の現象に注目していきたい。

<注>

- (1) 村木新次郎『ひつじ研究叢書<言語編>第101巻 日本語の品詞体系とその周辺』(2012年 ひつじ書房)「第2章 中国語と形容詞が日本語の動詞と対応する中日同形語について」に「中国語で形容詞として用いられる単語を、日本語の中で、形容詞として使用したもの」(p.391)の記述がある。

- (2) 日本語教育学会編『縮刷版 日本語教育事典』(1987年 大修館書店)の形容動詞の項目に「日本語教育における形容動詞の取り扱い」(p.130)の記述がある。
- (3) 浅川哲也・竹部歩美『歴史的变化から理論する現代日本語文法』(2014年 おうふう) p.213の注に次の記述がある。
- 北原保雄ほか(2004)『問題な日本語』は、その書名に意図的に形容動詞語幹ではない「問題」を形容動詞のように「問題な」と用いて、ある種の注意喚起をしているのであるが、近年では「問題な」という誤った用法に問題意識をもたない使用者層が増加しているため、書名の意図が正しく理解されていないおそれがある。
- (4) 『国語辞典』によっては名詞とも形容動詞とも扱われているが、北原保雄編『明鏡国語辞典 第二版』(2010年 大修館書店)では、「形容動詞ともみられるが」としながらも「大人な」の形は認めていない。

<参考文献・参考資料>

- 国語学会編『国語学大辞典』1980年 東京堂出版
- 金田一春彦・林大・柴田武他編『日本語百科大事典 縮刷版』1995年 大修館書店
- 山口明穂・秋本守英編『日本語文法大辞典』2001年 明治書院
- 日本語文法学会編『日本語文法事典』2014年 大修館書店
- 日本語教育学会編『縮刷版 日本語教育事典』1987年 大修館書店
- 日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店
- 日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店
- 西尾実他編『岩波国語辞典 第八版』2019年 岩波書店
- 松村明他編『旺文社国語辞典 第八版』1992年 旺文社
- 森岡健二他編『集英社国語辞典』1993年 集英社
- 山田忠雄他編『新明解国語辞典 第七版』2015年 三省堂
- 松村明監修『大辞泉』1995年 小学館
- 北原保雄編『明鏡国語辞典 第二版』2010年 大修館書店
- 三尾砂『話言葉の文法 言葉遺篇』1995年 くろしお出版(1942年の復刻版)
- 鈴木一彦・林巨樹編『研究資料日本文法 第3巻 用言編(二) 形容詞 形容動詞』1984年 明治書院
- 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味I』1982年 くろしお出版

名詞のナ形容詞化と表現意図

- 寺村秀夫『日本語のシタクスと意味Ⅲ』1991年 くろしお出版
- 村木新次郎『ひつじ研究叢書<言語編>第101巻 日本語の品詞体系とその周辺』2012年 ひつじ書房
- 浅川哲也・竹部歩美『歴史的变化から理論する現代日本語文法』2014年 おうふう
- 江副隆秀『外国人に対する日本語教育からろう児も国語教育へ 見える日本語、見せる日本語 (1)』2011年 平河工業社
- 名柄迪監修『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ17 修飾』1991年 荒竹出版
- 藤原雅憲『日本語教育 よくわかる文法』2018年 アルク
- 北原保雄編『問題な日本語—どこがおかしい? 何がおかしい?』2004年 大修館書店
- 北原保雄編『続弾! 問題な日本語—何が気になる? どうして気になる?』2005年 大修館書店
- 村木新次郎『『神戸な人』という言い方とその周辺』(中村明他編『表現と文体』8章所収) 2005年 明治書院
- 高見澤孟『E.H. ジョーデン女史の日本語教育への貢献』(『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第33号所収) 2005年
- スリーエーネットワーク編著『みんなの日本語 初級I 第2版 本冊』2012年 スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク編著『みんなの日本語 初級II 第2版 本冊』2013年 スリーエーネットワーク
- 恩田陸『雪月花黙示録』2013年 角川書店
- 夏川草介『始まりの木』2020年 小学館

(くの かおる・本学卒業生・日本語教師)